資料1

令和5年度ゼロカーボン研究会の概要と第5回研究テーマの説明

事務局
（備前グリーンエネルギー株式会社）

令和5年度ゼロカーボン研究会の概要

【目的】
　２０５０年までに二酸化炭素排出実質ゼロを実現するため、岡山連携中枢都市圏、周辺自治体、事業者及び大学等と「ゼロカーボン社会」実現に向けた具体的な取組について調査・研究し、令和6年度以降に実現可能な事業等を創出すること。

【開催回数・時期】
　合計5回のゼロカーボン研究会と、事業創出に向けた具体的内容を検討するためのゼロカーボン分科会を開催予定。
（5月、7月、10月、11月、**1月**）

【参加者】
　産：各回テーマ毎に参加を希望する企業
　学：各回テーマ毎に参加を希望する大学
　官：岡山連携中枢都市圏構成市町、倉敷市など

第5回研究テーマ
『サーキュラーエコノミー（循環型経済）の推進による脱炭素化』

- 脱炭素化の取組ついて、以前から実施している事業者からは、省エネによる対策は既に一定程度実施済であり、今後の削減余地には限りがあるとの声がある。
- その一方で、原材料調達から製品の廃棄に関する温室効果ガス排出量まで視野を広げ、省資源化や再生資源の活用などのサーキュラーエコノミー移行につながる取組に注目する声が聞かれる。

省資源化や再生資源活用のCO2削減効果に注目する地域企業の声

- ✓ 生産性向上に向けたカイゼンは得意であるが、省エネを頑張っても、使用する電力の10%程度の削減でさえも難しいであろう。
- ✓ 省エネは従来から取り組んできているため、これ以上の省エネの余地は限られている。廃棄物の削減は余地があり、省エネに寄与する。
- ✓ 銅の使用量の削減を通じてCO2排出量削減に寄与できる。
- ✓ スクラップ資源を有効活用するとCO2を削減できる。スクラップ資源は輸出しないで国内で使用すべき。
- ✓ CNの実現には、（省エネ以外の手法として）製造方法や材料を変えるといったことも必要になると思われる。材料を再生材に代替する場合、耐久性の向上や、品質のばらつきの安定化、リサイクルなどの技術開発課題に取り組む必要がある。

サプライチェーン排出量との関係

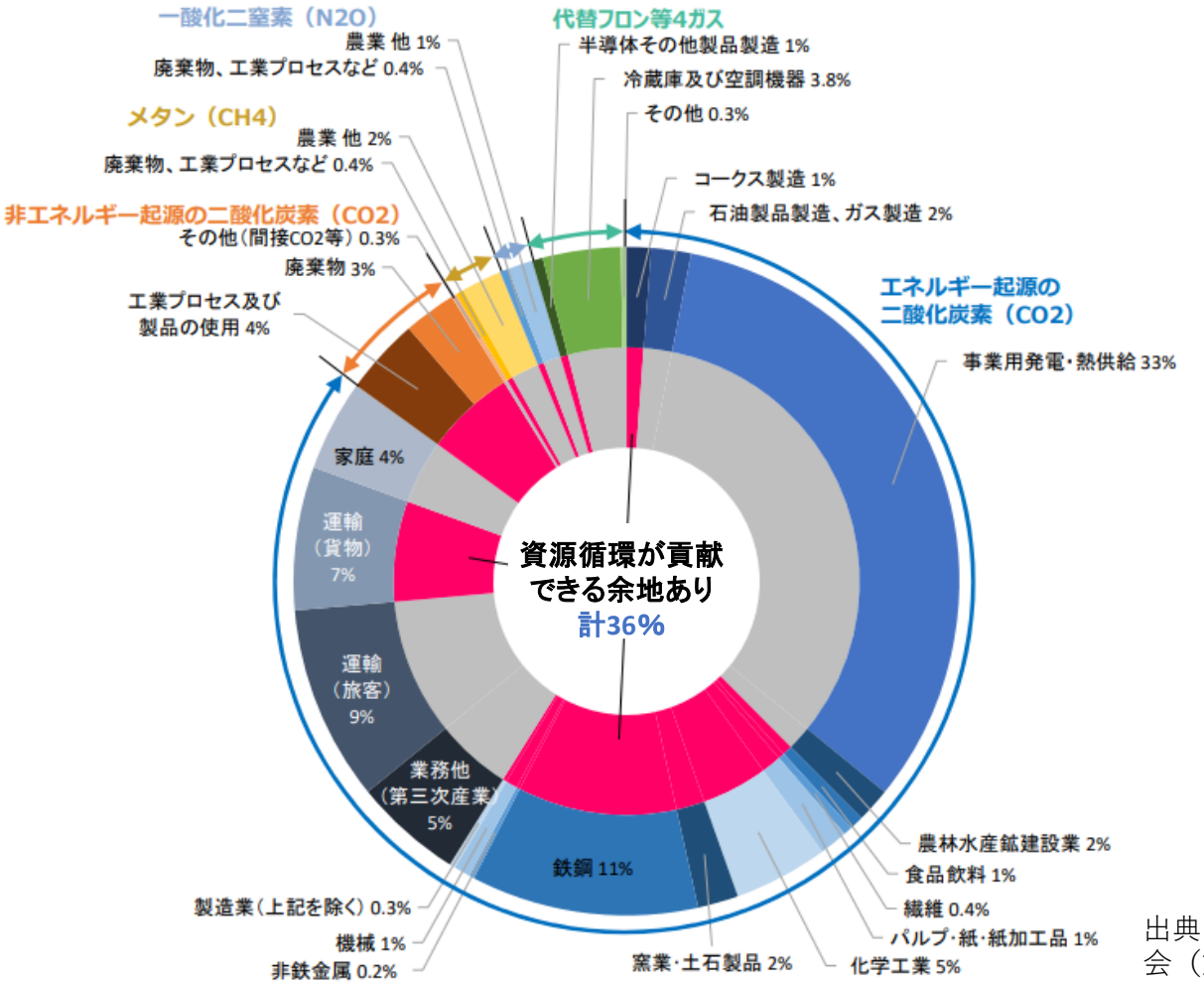
Scope3のカテゴリーには、
資源循環と関係する
「①購入した製品・サービス」(原材料調達等)
「⑤事業から出る廃棄物」
「⑫販売した製品の廃棄」
の分類がある

出典：兆しレポート　カーボンニュートラル対応で進展するサーキュラーエコノミーの兆し（経済産業省中部経済産業局）

第5回研究テーマ
『サーキュラーエコノミー（循環型経済）の推進による脱炭素化』

- 我が国の温室効果ガス排出量のうち資源循環が貢献できる余地がある量は、２０２０年度に全排出量の３６％（４億tCO2換算以上）と推計されている。

GHG種類、貢献余地の有無別、部門別の内訳（2019年度確定値）



出典：中央環境審議会循環型社会部会（第４１回）資料（環境省）

第5回研究テーマ
『サーキュラーエコノミー（循環型経済）の推進による脱炭素化』

【講演の観点】
　今回の研究会では、サーキュラーエコノミーの推進による脱炭素化に向けた具体的な手法、GHG削減効果等に関する最新の研究結果、岡山での民間事業者の取組事例、スマホアプリを利用した個人間でのリユース促進についてお話を伺い、社会全体のモノの流れに関する温暖化対策について考える。

本日の講演内容

内容	講師
（1）サーキュラーエコノミーの実現とそのインパクト	東京大学大学院工学系研究科 技術経営戦略学専攻 教授　村上 進亮　氏
（2）リペア文化の普及による SDGs への貢献と 人・環境 に優しい未来の創造	岡山県リペア協会 会長　佐々木 翔平　氏
（3）公民連携による循環型社会の推進の可能性	株式会社メルカリ 経営戦略室政策企画参事　高橋 亮平　氏